

1 研究主題・副主題

学び合って のびゆく子の育成

—「考えた!」「わかった!」「もっとやりたい!」授業をめざして—

2 主題設定の理由

今年も研究主題を「学び合って のびゆく子の育成」とした。今年で7年目になる。わたしたちは、一人一人の児童が友達の考えを認め、新たな発見をし、自分の考えの不足に気づき、よりよい考えを見つけて「学び合う」姿を日々求めている。

また「のびゆく子」とは、「自分で課題を見つけられる子」「進んで課題に取り組む子」「既習の内容を生かす子」「くり返し学習に挑戦する子」ととらえてきた。

今年度は、これら「のびゆく子」を具体化させるために次の視点を明確にしながら研究をすすめたいと考える。

- ・ 自分で課題を見つけたり進んで課題に取り組んだりするために基礎・基本の定着を進める。
- ・ 一人一人が課題意識をもち、既習の内容や経験、友達の考えなどを活用して問題解決に取り組む中で、更なる知識・技能の習得を図る。

そして、副主題を、～「考えた!」「わかった!」「もっとやりたい!」授業をめざして～とし、児童一人一人の心が充実し達成感にあふれた授業を構築したいと考えた。

3 研究仮説

児童自らが解決したくなる課題を提示し、学習過程や評価の方法を工夫すれば、児童の学習意欲が高まり、さまざまな知識や技能を活用しながら、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力等が高まり、「考えた!」「わかった!」「もっとやりたい!」授業につながるだろう。

4 研究の基本方針

複雑化する時代の要請を受けて学校現場に要求される課題は多い。しかし、どのような課題があっても、わたしたち教師が大切にしなければならないのは、一時間一時間の授業に力を集結し、授業の場を通して児童を育てていくことである。そのためには、児童の実態を見極めて授業を構想し、授業の中で児童にどんな力がついたのかを評価していくことが大切である。そして、学び合いの授業の基盤となるのは、思いやりと信頼関係のある学級づくりを行い、学習の構えをしっかりと身につけさせていくことである。

これらのことを共通理解し、研究主題実現のために実践の集中と手だての明確化を図りたい。

5 研究の進め方

(2) 研究組織

① 研究推進委員会

研究の方向・内容・進め方・研究構想図などの原案を作り、全体研究会および低中高部会に提起していく。

② 全体研究会

研究の方向・内容・進め方や研究授業について協議し、学校研究についての共通理解を図る。

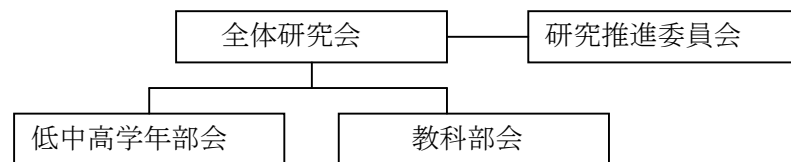
③ 低中高部会

授業を中心に実践研究を図る。

④ 校内教科部会

各教科の知識・技能の習得を図る。

各種調査を分析し、対応を検討する。



(2) 方法

① 低・中・高部会の努力点を設定する。

② 国語科・算数科を中心に研究を進め、他教科へ波及させていく。

③ 全員1回以上研究授業を行う。

国語科・算数科を受け持たない級外は、担当する教科で研究授業を行う。

④ 年間3回の全体研究授業を設定し、共通理解を深めながら進める場とする。全体研以外を部会研とする。

⑤ 研究構想図や活用力を意識した授業の仕組みモデルを作成し、研究の方向性について共通理解を図る。

⑥ 先進校視察の報告や講師を招聘した学習会や先進校視察の報告を行う。

6 研究の重点

研究主題の達成をめざし、仮説の検証に向け、以下の観点を研究の重点とし取り組む。

(1) 課題意識のもたせ方の工夫

(2) 学習過程や評価の工夫

(3) 活用力向上のために